

令和4年度（2022年度）つくば市行政経営懇談会において、つくば市行政経営懇談会設置要項第2条の規定に基づき、「つくば市市民参加推進に関する指針（平成30年3月策定）」について協議しましたので、懇談会から別添のとおり提言します。

令和5年（2023年）3月28日

つくば市長 五十嵐 立青 様

つくば市行政経営懇談会委員

座長 溝上 智恵子

委員 飯田 哲雄

委員 上田 孝典

委員 小川 一弘

委員 小見山 京子

委員 手塚 純子

委員 星埜 祥子

委員 堀 賢介

委員 水谷 浩子

委員 柳下 浩一朗



## 1 はじめに

- ・ つくば市では、平成 30 年 3 月に「つくば市市民参加推進に関する指針」（以降、「市民参加指針」とする）を策定し、市政への市民参加を促進するため、市民参加を「共有、理解」、「企画・立案、計画」、「実行」、「評価・検証」の 4 段階で進めるとともに、つくば市の附属機関の委員及び懇談会等の構成員の一部に市民が参加することとしている。
- ・ 市民参加指針では、策定から 5 年を超えない期間で検証を行うことを規定していることから、これまでの取組等を踏まえて指針の検証を行った。

## 2 指針の検証過程

### (1) テーマ

「つくば市市民参加推進に関する指針」（平成 30 年 3 月策定）

### (2) 委員構成

別紙（委員名簿）

### (3) 開催日

第 1 回	令和 4 年 8 月 25 日	概要説明（つくば市における市民参加の取組）
第 2 回	令和 4 年 11 月 18 日	意見交換
第 3 回	令和 5 年 1 月 31 日	意見交換及び提言書作成

### (4) 検証方法

- ・ 行政経営懇談会では、10 名の委員で、令和 4 年 8 月から 3 回にわたり、「市民参加指針」について、「市政への市民参加とは何か」を再確認し、様々な角度から意見交換を行った。
- ・ 行政サービスを享受する（行政に関わる）ことや行政が発信する情報に関心をもつこと等が市民参加のきっかけとなることを確認しつつ、当懇談会では、つくば市が開催する会議やワークショップ等に参加し、直接的に市政に意見を述べる市民をどのように集め、増やすかに焦点を当てて議論を進めた。
- ・ 懇談会では、つくば市の取組状況を聞き取り、「市民参加指針」の構成、「市民参加の推進に関する基本的な考え方」について議論を深め、今後の市民参加取組の課題に対する対策、検証方法について提言書をまとめた。

### 3 指針の検証結果について

「市民参加指針」の「3. 市民参加の推進に関する基本的な考え方」の項目について、事務局から示された実施状況、市民意識調査結果等を参照し、指針の適用範囲や定義、構成に関する「総論」と指針で整理した「市民参加の推進に関する基本的な考え方」の項目に関する「各論」、それぞれについて意見交換を行った。

#### 主な意見交換の状況

##### 【総論】

- ・ 指針の策定からこれまで、市民参加の取組は感染症の影響もあり、対面での対話からオンライン上の対話やアンケート調査などの非接触形式の方法が増加し、その重要性は高まっていることがうかがえる。市民参加の方法の充実が求められているので、今後の市民参加の在り方として検討されてはいかがか。
- ・ 市民意識調査の集計結果（問15：あなたは市政に対する自分の意見等を、以下の方法で市に伝えたことがありますか）で、「市に伝えたい意見がない」（631人、36.0%）に加え、「無回答」（374人、21.4%）にも着目すると「市に言っても無駄だと考える人」、「市政に興味がない人」も含まれているのではないか。なぜ無回答となっているか、要因を分析してはいかがか。
- ・ 市民意識調査の集計結果（問14：あなたは、つくば市には、市政に市民が参加できる環境が整っていると思いますか）で、「そう思う」（85人、4.9%）と「どちらかといえばそう思う」（451人、25.8%）と回答する人が増えているが、「分からない」（574人、32.7%）も増えていることを踏まえると、無関心であり、「市民が市政に参加する」という機運が高まっていないのではないか、又は、「市民が市政に参加できる環境」がどういう環境を指すか分からないのではないか。この懇談会では、市政への参加は市の政策に市民の意見や提案を反映させる過程としてつくば市が開催する会議やワークショップ等に参加し、直接的に市政に意見を述べることに焦点を当てているが、調査回答者によって「市政に参加する」の意味の受け止め方が異なることにも留意されたい。
- ・ 市では市民参加における環境整備をこれまで行ってきたが、参加者数の増加を引き続き課題と考えているなら、基本的な考え方の3項目（情報の積極的な発信・参加しやすい環境づくり・市民意見の積極的な反映）の前段階として市民が参加したいと思うよう学校教育との連携など「参加意欲の醸成」について考える必要があるのではないか。

- ・ この懇談会では、市の会議等へ市民が委員として参加することに焦点を当てているが、指針で述べられている「市政への参加」の裾野は広く、パブリックコメント、アイデアソン等も市民参加に含まれるのではないか。市政への関心が高い市民を増やすということを念頭に市民参加をイメージしているように感じるが、「自分は市民参加と関係ないと思っていたけど関わりがあったのか」と市民に意識してもらうことから、関係性が築かれるのではないか。
- ・ 市民が市の会議等で意見を述べるだけでなく、市民と行政の関わりには様々な段階があり、各段階に沿った推進策を考えることも必要ではないか。

**(段階例)**

STEP1 (市が提供する行政サービスを利用する等)

STEP2 (地域での諸活動にボランティアとして参加する等)

STEP3 (公募委員として各種審議会や委員会で政策立案に関わる等)

## 主な意見交換の状況

### 【各論】

#### (1) 積極的な情報発信

- ・ 情報発信する立場（行政）のみではなく、情報を受け取る側（市民）の行動に目を向けるべきではないか。
- ・ 若い世代をターゲットとするのであれば、硬い情報は、噛み砕いて発信すべきではないか。
- ・ 発信ツールを拡大していくだけでなく、既存の媒体においても情報を見つけやすく目立たせる工夫が必要ではないか。
- ・ 紙媒体は、自ら情報収集を行わずとも、情報を受け取れるメディアであり、一定の年齢層には、非常に有益なメディアである。紙と電子（ホームページや SNS 等）のメリット・デメリットを踏まえて、使い分けて情報発信すべきではないか。
- ・ そもそも、市政に興味がない人には、「参加したことでのどのようなメリットがあるのか」を発信することが必要ではないか。一方で、情報発信には限界があることも致し方ない。

#### (2) 参加しやすい環境づくり

- ・ 市が参加しやすい会議づくりを進めていることは重要であり、評価できる。
- ・ 市民意識調査の年代別集計結果（問 14：あなたは、つくば市には、市政に市民が参加できる環境が整っていると思いますか）で、「わからない」(37.1%) が 3 割強を占めるが、そもそも、回答者属性（年齢別）集計結果で 10 代の回答が 27 人（1.5%）であり、若い世代の意見を把握できていないのではないか。
- ・ 学校教育や家庭教育との連携を図り、市民参加とは何かということについて理解を深めていくことが今後の市民参加を考えていくうえでは重要ではないか。
- ・ 成人年齢が 18 歳に引き下げられたことも踏まえ、市民参加のハードルを下げた取組を充実させる必要があるのではないか。
- ・ 会議等に参加する中で分からないことがあれば分からないと言えるような環境づくりが必要ではないか。
- ・ デジタル技術を活用した市民参加の取組は、社会情勢の変化（感染症の影響等）もあり重要性が高まっているがツールの特性を熟慮した運用が必要ではないか。参加の機会拡大が

期待されるが、現状の文字のみによる対話は、参加者が限定されることが懸念されるので、幅広い市民参加の推進（特に、参加率の低い若い世代の参加）には、難易度が高いのではないか。また、書き方次第で誤解や中傷となる恐れがあることから安心して参加できる配慮が必要ではないか。

### **(3) 市民意見の積極的な反映**

- ・ 市民意識調査の年代別集計結果（問14：あなたは、つくば市には、市政に市民が参加できる環境が整っていると思いますか）で、「わからない」（37.1%）が3割強を占めるが、そもそも、回答者属性（年齢別）集計結果で10代の回答が27人（1.5%）であり、若い世代の意見を把握できていないのではないか。（再掲）
- ・ 市民委員参加者アンケートの集計結果（問：ご自身の意見や質問などを発言することができましたか）に関する市の分析で、「自分自身の意見を言うことができた」と回答する割合が調査ごとに増加」と記されているが、市民委員参加者アンケートに本設問が設けられて2年目ということを踏まえると、表現を見直すべきではないか。

#### 4 市民参加の推進に関する今後の課題と対策について

幅広い世代の方に積極的な参加を促進するため、以下を提案するので検討されたい。

##### 提言 1：情報の積極的な発信について

市民参加の機会について、行政の取組に対する市民の認知度向上や意識の啓発を図る取組を充実されたい。

##### 【主な取組（意見）等】

##### （1）多様な情報発信ツールの活用

- ・ 交流センターの掲示板に市民委員募集チラシを貼ることは、多くの人の目に触れる仕掛けとして効果的であるのではないか。
- ・ 一方で、ツールの多様化のみではなく、既存のホームページなどで情報の見つけやすさ、目立たせ方についても工夫等既存のツールの改善も必要ではないか。

##### （2）ターゲットの理解深化

- ・ ターゲットの理解深化（何が分からないのか、何を伝えればよいか、把握するには、理解を深め参加してほしい属性の対象者（特に、市民委員の参加割合が低い若い世代など）を集めて意見を把握することも必要ではないか。
- ・ 意見の把握にあたっては、どうすれば市民がより市政に参加したいという意欲が沸くのか、市民参加の理解を深めるための工夫も必要ではないか。

##### （3）市民参加の意義共有

- ・ 市民委員とは何か、市民参加とは何か、分かりやすく周知することも必要ではないか。（市民参加を促すキャッチコピー等）
- ・ 市民委員に参加することでどのようなメリットがあるのか、市民委員参加経験者の声を発信することも必要ではないか。

## 提言 2：参加しやすい環境づくり

市民参加の効果を最大限発揮できるよう市民が置かれている状況を十分に考慮することに加え、会議出席者の意見形成の支援や意識醸成を図る取組を充実されたい。

### 【主な取組（意見）等】

#### （1）事前説明の徹底

- ・ 会議等において、参加する市民の疑問点を解消し、安心して議論に参加し意見表明できるよう事前説明を徹底して行うことも必要ではないか。

#### （2）教育との連携

- ・ 市の取組と自分がどのように地域と関わっているのかについてイメージを持ってもらうことが将来的な市民参加促進のために重要であることから、市は学校教育や家庭教育との連携を図り、市民参加とは何かということについて理解を深める取組を行っていくことも必要ではないか。

#### （3）楽しみながら関わる機会の創出

- ・ 楽しい・面白い等参加しやすく魅力的な要素を取り入れ、市民参加の入口に関心を集める取組の充実も必要ではないか。

## 提言 3：市民意見の積極的な反映

積極的に意見を表明できない市民意見の汲み取りや意見聴取後のフィードバックについての仕組みづくりを充実されたい。

### 【主な取組（意見）等】

#### （1）サイレント・マジョリティのフォロー

- ・ 積極的に参加したいと思わない人の意見もどのようにして市政に反映していくかの仕組みづくりについても考えていく必要もあるのではないか。

#### （2）合意形成過程の見える化

- ・ 市民委員に参加するメリットとして、自分の意見が反映されたと目に見えるかたちでわかるような配慮も必要ではないか。

#### （3）新たな市民意見収集方法の調査・研究

- ・ 他自治体や諸外国の事例を参考にしながら、インターネットを活用した市民意見を実現する方法等、新たな市民意見の収集手法を引き続き、検討されたい。

## 5 おわりに

行政経営懇談会では、平成 29 年度（2017 年度）に「つくば市市民参加推進に関する指針」の策定に向けた検討に関わり、平成 30 年度（2018 年度）の運用開始以降、毎年度市民参加の取組状況を確認し、その推進が効果的に実施されているかについて、議論を重ねてきた。

令和 4 年度の本懇談会では、当指針策定以降の取組を踏まえた指針の検証をテーマとし、当指針の検討に関わった委員、継続的に取組状況に対する助言に関わった委員、公募と無作為抽出による委員等候補者名簿の双方から選定された市民委員を構成員とし、議論に臨んだ。各構成員が、それぞれのバックグラウンドをもとに、多角的な視点かつ非常に高い熱量で議論された内容が、本提言書となっている。

前述の指針の検証結果や今後の課題と対策に記したとおり、今後も更なる取組の改善が求められていることは言うまでもないが、市のこれまでの取組から、無作為抽出による委員等候補者名簿の活用をはじめとした外形的な仕組みづくりが進んでいることや、オンラインミーティングの活用や市民意見集約へのデジタルプラットフォームの導入事例の調査等新たな手法に取り組む姿勢も見て取れた。また、「市民委員意見交換会」や「市民委員参加者アンケート」等による市民参加の取組について市役所内で検証する仕組みづくりも整えられてきており、引き続き、改善を図りつつ、5 年を超えない範囲で、再び取組状況を多角的に検証されたい。

最後に、市民委員として市の会議に参加するという行動は、日常生活から少し離れた行動ではないかという懇談会における議論を踏まえ、心理的なハードルを下げるきっかけづくりとして、参加いただいた委員に会議の感想等を「振り返りシート」に綴っていただいたので、別紙（参加した市民委員の声）に掲載する。

本提言書の内容が今後のつくば市の市政に反映され、市民参加の推進に向けて更なる取組を進められることを期待したい。

令和4年度（2022年度）つくば市行政経営懇談会 委員

	氏 名	役 職 等
1	いいだ てつお 飯田 哲雄	つくば市区会連合会会長
2	うえだ たかのり 上田 孝典	筑波大学 人間系（教育学域） 准教授
3	おがわ かずひろ 小川 一弘	市民委員
4	こみやま きょうこ 小見山 京子	市民委員
5	てづか じゅんこ 手塚 純子	市民委員
6	ほしの しょうこ 星埜 祥子	子育てほっとステーション・オアシス 代表
7	ほり けんすけ 堀 賢介	つくばパーク法律事務所 弁護士
8	みずたに ひろこ 水谷 浩子	テクノパーク桜まちづくりを考える会 代表
9	みぞうえ ちえこ 溝上 智恵子	筑波大学 理事、副学長
10	やぎした こういちろう 柳下 浩一朗	市民委員

(敬称略、50音順)

期間：令和4年（2022年）8月25日～令和5年（2023年）3月31日



# 参加した市民委員の声

令和4年度行政経営懇談会の市民委員として参加いただいた委員の皆さまから、実際に委員として活動して見た感想やもっと良くなるためのアドバイスをいただきました。

## 令和4年度の市民委員の皆さま



30歳代（委員経験なし）  
無作為抽出名簿により市から参加依頼



40歳代（委員経験なし）  
無作為抽出名簿により市から参加依頼



30歳代（委員経験あり ※他自治体）  
公募により参加  
【応募したきっかけ】  
・知り合いの関係者や市の職員さんのSNSを見て  
・引っ越し後、つくば市を知る良いきっかけになると思った。  
・応募前に、様子を聞きに行った際の職員さんの対話に対する姿勢



60歳代（委員経験あり）  
公募により参加  
【応募したきっかけ】  
・つくば市に何か協力したいという思いから、市民委員を毎年やっている。  
・市民委員で知り合った方々とつながったことで**気持ちが豊かになった**。  
・子どもたちが喜んでいただけるつくば市にしていきたい。

### 無作為抽出名簿とは…

住民基本台帳から無作為に抽出した1,000人に「市民委員候補者名簿」登録の依頼文書を送付し、名簿への登録に同意いただいた方の中から審議会等の委員就任を依頼するものです。

## 懇談会に参加してみた感想は？



初めて参加し、**市政の事を知ることができてとても良かったです**です。



制度も全く知らず、敷居が高いものだと思っていた際には少々戸惑いましたが、これも何かの縁かと思い、**自身の勉強のため**に参加することにしました。

希望していた審議会等のジャンルとは違いましたが、他の委員の方のお話は、私が思ってもみなかった方向からのアプローチがあったり、見識の広さ、深さには驚かされました。

この話し合いの**場にいられるだけでも有意義**であったと思います。

より多くの市民の様々な意見を汲み上げやすくして、人任せでなくより良い市政にするための指針、ツールについて考え、**議論することは、楽しくもあり、大変な作業**だなどという印象を受けました。ぼんやりした概念だったものが、議論によりクリアな形になって市政に反映されることで、じわじわと**やりがいを感じられる**かと思っています。

思っていたよりもはるかに、**形式上必要なので開催しているという感じが感じられない**こと。座長はもちろんのこと、市の職員の方々も自分の言葉で回答くださったり宿題として持ち帰ってくださり、「**伝えたのに無視されている・流されている**」という感覚を持つことが一度もなかった。

ひっくり返すような意見や、委員同士の相反する意見がでて、どれにもそのまま向き合っておられ、過去の経験とは全く逆の様子を体験することができた。そのことによって、行政への“話せる”という信頼と、自分の意見が通らなかったとしても理由を説明され**“無視されてはいない”**と感じられる前提があるので「（今まで参加していなかった）市民参加」が進む土台があると感じられた。あとはマーケティングや広報のスキルと運営だけだと思うので、それは職員さんたちが現場に飛び出ていき、市民と一緒に考え進めるプロセスの中で日々更新すれば、真の「市民参加」ができると期待できた。そのような私にとっての成功体験があるからこそ、他の人にも伝えたいという気持ちを持てた。

**市の施策をより良いものにするには、やはり市民の協力が計画段階から必要**だと再認識しました。

懇談会に参加して、いろんな方とつながりを持つことができ、**豊かな知見と温かい人間関係を感じました。**

## どうすればもっと良くなる？

使用されている資料はいつも極力シンプルで私（ほかの行政にかかわったことがある、まちづくり会社をしている）にはこれまで見たことないくらいにわかりやすいものだったが、「**行政やまちづくりの用語には詳しくはない人**」にとっては**まだまだ難しさを感じる**ものであったようだ。

無作為選出の方のうち希望があれば基礎知識を共有する会を開催したり、有識者・公募・無作為選出で発言時間をわける・聞きたい観点を分けるなどの工夫を行い、**詳しくない人が引け目を感じることはない・詳しい人がわからない人を気にすることなく発言できると“もっと”いい**と感じた。

参加者それぞれの立場を踏まえて**有意義なものとするには、ていねいな進行と豊かな時間が必要**だと思いました。

## 市民委員以外の委員さんからも意見をいただきました。

市民委員の方々の熱心なご意見を拝聴し、**学ぶことが多くありました。**もっと多くの方に参加していただけますよう、提言が生かされた市政を期待いたします。